

創立130周年記念事業報告

昨年10月から11月にかけては130周年記念事業として多くの催しが行われました。14号に続き、その一部をご紹介します。

神田道子氏 名誉博士特別講演 —「男女共同参画社会の形成と女子教育」—

昨年11月22日、創立130周年記念式典があり、式典後、神田道子氏（本学文教育学部教育学科昭和32年卒）への名誉博士号授与式と氏の特別講演が行われました。氏は女性の生き方や生活の課題を研究テーマとされ、現在、国立女性教育会館理事長を務めておられます。

特別講演「男女共同参画社会の形成と女子教育」では、神田氏は、女性の能力開発が、長い歴史のプロセスを経て良妻賢母や、固定的性別役割分業観などの規範から自由になった過程を話されました。最後にこれからは、女性が自立する力・社会参画する力をつけていくことが重要であると話を結ばれました。

第2次世界大戦を挟んだ教育制度激変の体験や、戦後の女性学の成立に関わった経験など、女性の生きる指針についての話は、聴衆に大きな示唆を与えました。

（文責：編集委員会）



お茶の水女子大学名誉博士 神田道子氏

記念植樹行われる

創立130周年記念式典に続いて、生活科学部本館中庭にカラタネオガタマの植樹が行われました。カラタネオガタマは春に美しく薫ります。秋に薫る徽音堂前のキンモクセイの老木とともに、今後は本学の春の象徴として育っていくでしょう。（文責：編集委員会）



生活科学部本館中庭での記念植樹

講演会「物理の世界を楽しもう」

本学創立130周年に当たる平成17（2005）年は、アインシュタイン博士が特殊相対性理論など重要論文を発表してから100年、没後50年に相当しました。博士は大正11（1922）年に来日された折、本学の創立記念日11月29日に来校され、歓迎会が開かれたそうです。

本学への来訪を記念して昨年11月26日に開かれた講演会「物理の世界を楽しもう」では、佐藤文隆氏（京都大学名誉教授、甲南大学教授）による「アインシュタインの百年：四つの顔」、村尾美緒氏（東大理学部助教授、本学大学院博士課程修了）による「量子学を通じて世界の広さを知る」、堀井香奈子さん（本学物理学科3年生）による「遠くまで行った人が一番えらい?!」の3つの講演が行われ、物理学の楽しさを伝えました。（文責：編集委員会）